

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 16 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和元年 6 月 13 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出席者氏名	出席委員：村林守委員、梅村光久委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員  欠席委員：佐藤祐司委員、西岡裕子委員、村田吉優委員  事務局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、家城企画振興部長、藤木経営企画課長、山路政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

## 第 16 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和元年 6 月 13 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分
  2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
  3. 出席者 村林守委員、梅村光久委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 佐藤祐司委員、西岡裕子委員、村田吉優委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路企画振興部経営企画課政策経営係長

### 1 市長あいさつ

それでは皆さま、改めましてこんにちは。この会議も 16 回目です。この会議は 1～2 時間の会議で、しかもフリートークに近い会議でいろいろお話をいただきます。この会議でいただいた意見はかなり政策実現をしています。ピロリ菌の話も既に今年の春、2 回目の検査を中学校ですてしております。かなり実現性の高い状況で推移していると思います。それもそのはず、松阪市に関係のある本当に志の高い皆さまにお集まりをいただき、濃い意見をいただいているからです。

2 回に分けて 4 年間で振り返るといっていただきました。この 4 年間で振り返ってどうだったか、新たに松阪市とは、といったさまざまなお意見をいただき、今後の松阪市に対して引き継いでいくという形になればと思っています。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

### ○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

改めましてこんにちは。いつもお忙しい方々がお揃いいただき、かなりフランクに市長も発言する意見交換ができる機会は貴重だと思います。また、我々の意見が市政に反映して市民のためになっているということで、今回も率直なお意見をいただきますようお願いいたします。

例によって会議の公開・非公開を決定する必要がありますが、竹上市政の 4 年間で振り返ることですから、あまり差し支えない範囲で、個人情報に触れないということで、公開ということでいかがでしょうか。

(異議なし)

会長)

ありがとうございます。では、本日も公開で進めてまいります。

## 2 協議事項

### 1) 4年間の行財政運営について

会長)

では、事項書に沿って進めてまいります。

事項書2の協議事項 1) 4年間の行財政運営について、市長から資料に沿って説明をいただきます。

(市長より資料の説明)

資料1 竹上市政の4年間を振り返る

資料2 決算等の推移

資料3 松阪市中期財政見通し(平成32年度～平成36年度)

会長)

ありがとうございます。

財政の部分で少し気になったのが、前の市長の時に借金時計を作り起債を抑制することに力を入れることを市民にアピールされましたが、竹上市長の投資や借金の仕方、起債についての姿勢をお聞きしたい。

市長)

必要な投資はやるべきと思っています。松阪市の借金の将来負担率は100を超えているので、はなから地方交付税の決まりで必ず手当がされるお金ばかりです。そのため借金自体は今松阪市的には大変ではない。

ただ、人口が減っていくのに借金が増えていくのは良くない。基本的には借金を増やさないというスタンスです。ただし臨時財政対策債は除きますと付け加えています。

臨時財政対策債というのは、地方交付税の代わりです。主要5税を地方に分配してそれを平準化するために地方交付税がありますが、地方会計が完全に赤字に陥っており、国が国債を発行してそれを財源として充てていましたが、小泉改革の時に、半分は国債で借金するので、半分は地方で借金して、地方交付税でその借金は返しますというルールになった。それが臨時財政対策債なので、それを除いた借金を増やさないことを次回の私の公約でも発表しています。

それともうひとつが、今までの松阪市のやり方を変えているのが借金を返す期間です。箱物の耐用年数は40年とかあり、40年間に渡って借金を返す。将来の人も使うという税の公平性から将来の人にも負担してもらおうという思想です。

償還期間が30～40年であれば、大規模修繕も出てくるので、今は長くても20年ぐらいいにし、償還期間を短くしようと変えています。

また貯金がかなり溜まりましたので、特に短期間で壊れてしまうものは1年で返すという短期償還という新たなやり方もしながら、借金は増やさないようにしています。

会長)

それではご意見を承りたいと思います。

委員)

放課後児童クラブへの支援と子どもの学力向上、高田短期大学の連携というところで、放課後児童クラブでは、毎日預けられていて、校庭で遊ぶ時間もあり、中で一緒に宿題をする時間もある。それが日々ずっと続いていくなかで、何を教育されて、何を教えられているのか。

また、高田短期大学との連携協定があるのであれば、先生のとまごとの連携、地元のシニアの方との連携により、郷土愛を育てるなど、連携して教育の質や日々の積み重ねのなかで、子どもたちの質を上げていく工夫が必要なのではないか。

まつさか子育てアプリは、松阪らしい使い方をして欲しい。全国でも標準的に使われていて、自分も使っているが、地域の子育て情報が非常に少ない。もう少し地域でされている情報とか、子育て中のママが助かるような、また参加できるような情報があれば、どんどん教えていただきたい。

子育て世代のママとして、どうやったら税収が上がって少子化対策ができるのか調べたところ、明石市にはこども医療費助成の所得制限がない。いろんな意見があると思うが、若い勤労世帯や共働き世帯の住宅購入層である中間層が引っ越してくるポイントになっているようです。税金を納める中間層が恩恵を受けて納得できる環境があれば、駅西にできる施設やマンションをターゲットにして、所得制限がないと謳うことにより、人口が流入するのではないかというイメージがある。

市長)

放課後児童クラブは学校とあまり連携していない。もっと連携していかないといけない。

そのため教育委員会に所管を変えた。それまでは福祉部局の所管であった。平成29年に変えたが、視点が変わりつつある。学校の空き教室に放課後児童クラブを入れる予算も今年度上げている。

今まででは考えられないことだった。学校側は教育施設と違うものが入ってくることに対応抵抗感があったと思うが、一緒に教育委員会になったところが大きい。

学力の向上として、学校と放課後児童クラブの連携ができれば、教育的要素があっても良いのではないかと思う。夏エアコンもかかるようになったので、もっと学校を利用し、学校と放課後児童クラブが連携できればと思う。

委員)

それは可能なのか。今までは学校以外に作っていたが。

市長)

今年学校の中に放課後児童クラブを作る予算を付けました。

委員)

それは新しい建物を建てるということですか。教室を利用するということですか。

市長)

空き教室を利用します。

委員)

なぜ今までそれをやってこなかったのか。

市長)

それは教育委員会と市長部局にわかれていたからです。

委員)

他の県でもそうなのか。

市長)

たぶん少なくとも三重県はそうです。

委員)

私の町では人が増えすぎて子育て支援の教室を圧縮して逆にサービスが低下することがおきています。学校でできればベストですね。小学校ではできないことになっていると言われている。

市長)

時間と粘りが必要です。

会長)

昔は文部科学省と厚生労働省の壁があり、放課後児童クラブで使うと目的外使用になるので補助金を返せということになる。その学校自体を補助金で建てているのでまかりならなかった。今、市長が言ったのは、空き教室をどう活用するかという方向に変わってきたから。

委員)

発達障がい者の方の放課後デイサービスは、松阪市ではどうなっているのか。  
私の町にはひとつもない。松阪を利用しようとするとずいぶん高いと聞いている。

市長)

放課後デイサービスは、市内いくつかの民間事業所がやっている。  
そだちの丘もやっているが、人気があって入れない。  
障がいのある子どもたちも増えており需要が高い。

委員)

松阪市はそれに対して民間団体に補助は出されているのか。

副市長)

制度的なものでお金が出ていると思う。  
障がいにもよるが、学童保育のなかで障がい児も受け入れると、プラスでその分市からお金が出ます。

委員)

子育て支援、発達障がい児の支援をより深くすればするほど、松阪市は子育てに熱心だということで、かけるお金に対しての価値は上がると思います。

市長)

そこにはお金をかけているつもりです。  
小学校のアシスタントも今年 19 人増やし 74 人から 93 人にしたが、それでもまだまだもっと欲しいという声が多い。  
障がいのある子たちを見るところは公立だろうという持論。国の基準でいうところの人数では収まらない。不採算部分は公立で見るのが基本。

委員)

公立、私立を問わず教員の働き方改革が言われており、全国的に教員のなり手がずいぶん減ってきていると言われている。教員がすべき仕事、しなくて良い仕事を 17 分類にわ

けていて、その1つに、朝の登校時の見守りは保護者でやるべきで、学校関係者でなくて良いのではないかという考えがあるが、多くの教育に携わっているものは、実はそこが極めて重要だと考えている。

英語教育についても、小さい時から英語に触れる機会を設けていくことになるが、例えば松阪市の小学校であれば、年に3日間英語だけの時間を作るとか、ALTやJETプログラム等で異文化に触れるなど、コストをかけずにできるところから。言葉は通じることで初めて喜びを感じるので、特に小学生の子には文法ではなくて機会を増やしてあげる。

グローバルは多様性を認め、多様性を受け入れること。英語だけに注目するのではなく、本質である多様性を認めることの視点を忘れずに。

子どもの安全は地域、行政、学校と保護者で連携して総点検していかなければいけない。私立、公立関係なく、登下校中の子どもたちの命をどのように守るか。高齢者のみならず、自分自身も加害者にならないように、子どもが被害者にならないように、そういう施策を単体でなく、色々な方と連携していく必要がある。

委員)

先生の業務が増えたという何が増えたのか。

委員)

学校に求められる役割が増えた。保護者の要請が一概に悪いものではないが、社会構造がそうなっていることを前提に対応していけないと、それはご家庭でやってくださいということが、とても悲しい虐待の方向にいても良くないので、そこは学校が最後の受け止める場所であるべき要素も多い。今後教員の働き方改革の基本は教員の数を増やすしかないということまでできている。

委員)

例えば、会社であれば、総務なり経理がフォローするところがあるが、学校はそういう事務の部分をする人が圧倒的に少ない。そこを集中的に管理すれば、先生の負担は減り、教育にかける時間が増えるのではないか。

委員)

公立の小中学校を運営しているのは教育委員会ですので、先生方のいろいろな業務を吸い上げるような人員配置はひとつの方法かもしれない。

市長)

各学校には非常勤がおり、教育方針も変わってきていて、各学校の校長先生にかなり権限があり、特色のあるものになっている。

委員)

今の仕事が忙しいからこうするのではなく、30年後どうなっているのかという視点で考えないと場当たりのになる。そこが心配。

障がい者のことは公的でやるべきという考えは、少し私は違っていて、不採算部門は公的なところでやると、標準ありきになってしまう。標準でないもっと良いことをするということが後回しになってしまう。公的が悪いというわけではなく、むしろ、民間と連携しながら標準でないことを可能にしてくのが良いのではないか。

委員)

英語教育で多様性を認めることが基本とおっしゃったが、障がいのある人がいる空間が健常者と呼ばれる子どもたちに与える影響は教育的要素があるので分けてしまわないで、松阪がそこを旗印にしてインクルージョンの教育、インクルージョンの社会をめざすというような旗振りができると良いと思います。

委員)

近所に向野園という障がい者の施設があり、入所の方が毎週木曜日にクッキーなどを作って販売してもらっている。体育祭にも来ていただき、その方々にもプログラムに入っただき一緒に競技をする。日常入所の方とすれ違っても、子どもたちは偏見なくお互い挨拶したりする。心配せずともできてしまう。広げられると良いと思う。

委員)

学童保育で指導する人はどういう人ですか。先生は関わらないということですが、資格は必要ですか。

市長)

資格は必要ないです。有償ですが、かなり安いので有償ボランティアに近いという言い方が正しいですね。

委員)

良いと思います。お金ではなく、子どもを預かるという意識が高くて。  
またそこにシニアの方に関わっていただければ健康維持につながる。

委員)

一部関わってもらっているが、問題点もあり結構指導員は変わる。

預ける側の意識として、保育園の延長のイメージが強い。保育園は至れり尽くせりですが、放課後児童クラブは基本的には保護者運営で、値段も安いので至れり尽くせりではない。預ける側の不満が出ると、有償ボランティアで頑張っているのとなる。

委員)

放課後児童クラブのある程度スタンダードなカリキュラム、松阪市推奨モデルを作っ  
てはどうか。遵守してくれるならそこに補助を出すとか。ただ預かるだけでなく、もうひと  
アップできるようにしたらどうか。シニアの方も参加しやすくなる。

委員)

子どもたちの成長につながるようなことを、シニアの方とできると良いと思う。

委員)

地域の方を学童へ連れてくるというのを実験的にやろうと考えている。

第一小学校区で、ひとり暮らしのお年寄りの方に来ていただいて場づくりをする。モデ  
ルを作って、行く癖をつけてもらうのを実験的にしようと思っている。また、プロのサッ  
カー選手がボランティアで子どもたちにサッカーを教えたいという方がいらっしゃるので、  
そういう方に来ていただいて教えてもらうとか。カリキュラムとして各学校に提供をして  
あげたらチョイスできる楽しみができて良いのではないかな。

委員)

カリキュラムということで、学力が高いと、ここで子どもを育てたいと思う。10分間テ  
ストや漢字だけとか毎日すると学力も上がる。

英語力は国語力がないとできない。国語の時間を減らして英語をすることになるのであ  
れば、学童で国語に力を入れる。カリキュラムに入れると1~2年たてば学力が上がる。

委員)

いろいろな活躍をされる市民の方がいる。つなぐ人がいない。そのような印象がある。

連携だ協働だとは言われているが、そういった人を繋ぐ力が弱くなっていると感じる。  
決して松阪市役所の職員が弱いと思っているわけではないが、市役所の職員への研修を更  
に検討していただけると良いと思う。職員にも更につなぐ力を手に入れてもらうと、活躍  
手前の市民を引き上げるプラットフォームを作って、呼び寄せるような力、まぜる力を持つ  
職員が増えると心強い。

市長)

モデルを第一小で作り、カリキュラム的に広げる。やれるのは役所の人間より民間の力  
のほうがやりやすい気がする。

役所の一番悪いところは、人事異動があるのでずっとその人がそこにいない。そこが難  
しいところで、はなからそのスペシャリストならそれなりに良いが、普通に採用された職  
員は人事異動させないといけない組織理論がある。そこを考えると、民間やNPOでやっ  
た方がずっと柔軟に動ける気がする。

役所という組織は、公平であるがゆえに使い勝手が悪い。そこは宿命だと感じる。

委員)

生駒市役所は副業を解禁にした。私の知っているすごい行政マンが2~3人生駒に移住した。生駒市役所の職員は有能な方が集まっている。よい人材獲得のカギになっている。副業の業種にもよるが、そこまでしても良い人材を取ることが、これからは必要ではないか。

委員)

民間と人事交流はしていますか。

市長)

人事交流は今年金融機関としています。

委員)

お子さんのことに関連して、生活習慣病は大人になってからでは治らない。習慣は小さい頃にできている。

生活習慣を良くするには、幼稚園、保育園、小学校の時代から注意していかないと、大人になってから変えるのは難しい。病気の発症は薬で何とかなるが、そもそも病気にならないためには小さい頃が大事です。

大人の方は健康診断を受けることは大事です。健康診断を受けた方が将来的には医療費削減になる。受けた人には特典があったら良いのではないか。民間の生命保険会社は健康診断の書類を出すと保険料が安くなる。公的保険にも考えを導入することはできないか。その人たちは医療費の削減に貢献している。健康診断を受けようというきっかけになるのではないか。

委員)

運動することはいろんな特典がある。小さい頃から習慣があると大人になってからもプラスになってくる。目に見えない効果がある。

会長)

健康ポイント制はありますね。松阪独自で特典も考えたらどうか。はるるという保健師の拠点もあるから、学校と連携して子どもの生活習慣の施策を何かできないか。

委員)

最近でいえばピロリ菌の話で養護教諭の方に講演をした。予防医学の知識と学校にいる養護教諭の方との交流のなかで、お互い知識を深められることができれば、子どもたちの健康に寄与することが出てくるのではないかと。

委員)

子どもの健康ということで、まつさかこどもスイーツプロジェクトという取組を始めています。共働きの世帯が増え、子どもの栄養や食に関心があってもなかなか対応できない親御さんが増えている。食が崩れてきている現状から、松阪の農産物を使って松阪市民で子どもの安心安全なスイーツを開発してみようという、ひとつの町おこしを始めました。商品として体に良いものを、子育てママが中心となって有志の方を集め、市民を巻き込んだ仕掛けをしました。開発した商品は売りますが、ひとつの啓発のコンテンツとして、開発の段階をアーカイブしようと思っています。それをひとつのプロジェクトのパッケージとしてDVDなどに集約して、市民がプロジェクトとしてやったことを、松阪市の情報ツールとして全国発信していく材料にする。そこで松阪市を紹介していく。今チャレンジをしているところです。子どもの健康を守るということも啓発しようと思っています。

委員)

65歳以上の方で有能な方がたくさんいる。そういった方が活性化し生きがいとなる市民バックアップクラブを市が作り、有償、無償、特技、自分のやりたいことなどをデータベースに入れて、依頼があるとバックアップしに行く。そういった市民のために活性化する組織を作ると良いのではないかと。

委員)

高齢の方の社会参加は健康長寿にも良いことがわかっている。

委員)

高齢者は職を離れて、自分は何をしたら良いかわからない。その人たちには個々に気づかない能力がある。それを生かすようなプロジェクトを作ったら良いと思う。

市長)

今年行政アプリを作る予定です。その中に1つボランティアサイトのようなものを作ります。松阪市にボランティアセンターが社会福祉協議会にあるが、ほとんど若い人は来ない。ボランティアをしたい、社会に貢献したい人は山ほどいる。そういう人に、いつ、こういった事業があり、何人募集しますとサイトでプッシュ通知を送ります。良い人材が集められるのではないかと考えている。

これからは、市民の皆様のをいかに引き出すか、お手伝いいただけるか。

委員)

大学入試制度改革で、全国的にこの 1~2 年でボランティアをしたい高校生が急増する。

氏郷まつり、松名瀬海岸の清掃のボランティアを発信していくと、おそらく多くの地元の高校生たちは飢えていると思います。どこで探せば良いのか、どこかの大手に頼むより、せっかくなら地元に戻元できるような場を発信すると急激に増えると思います。

委員)

市長の 4 年間の振り返りのなかでいろんな形で勉強させてもらった。皆さんの考え方を改めて自分なりに置き換え、日々の生活の中での気づきを大切にし自分を高めていきたい。

委員)

放課後児童クラブへの支援ということで、充実しすぎると家庭がそっちに任せたら良いとなりそう。共働きをしていると無理なこともたくさんありますが、放課後児童クラブと家庭教育は子どもを育てていくうえでどうしても必要な柱。

親御さんの負担や先生の負担が増えると困るが、適正なものが必要だと思う。自分の子どもであり地域の子どものですから、地域や親が育てないといけないという思いがある。そういうところに配慮が届いたらと思う。

委員)

県立高校から、公民館のボランティアをしたい、何かお手伝いできることはないかと声がけいただいている。

地域の 65 歳以上の方もしたいということで、公民館が間に入れば良いのではないかと、絵本等を寄付し朝 10 分間の読み聞かせをしに行ったり、家庭科で玉止めができない、ミシンに糸が通せない、千切りや包丁を持たせるのに先生 1 人に対し子どもが 30 人では大変ということで、学校から誰かお手伝いくださいと言われれば、こちらからお手伝いにお邪魔している。

放課後児童クラブでは、年に何回かお手伝いいただきたいということで、夏祭りのお手伝いや夕方ドッジボールを手伝ったりしている。

地域がお手伝いすることで、地域の子どもたちを元気に、地域を大好きになってもらう、また、年配の方もその地域で元気でいて欲しいということで、間に入れないか考えながらやっています。

最後にひとつ、松阪の子育てアプリのことで、各公民館でも地域だけではなくいろいろな地域から来てもらえる行事もやっています。公民館だよりも載せるのですが、なかなか紙ベースのものなので見ていただけない。公民館も子育て関係のものもあるので、まつプリに載せてもらおうとありがたいです。

委員)

ツイッターで中心商店街ののぼり問題が全国的に出ている。松阪市のイメージが悪くなっていますが、行政としてある程度介入するべきではないか。

市長)

これから少しこちらサイドも動き、いろいろなお願いをしながら、着地点を見出していくつもりです。

委員)

商売している側からしたら、あまり杓子定規にいうことが豪商のまちに反しないかという気がします。

市長)

相手のある話なのでなかなか難しい。頑張ります。

会長)

素晴らしいご意見をいただきました。また、市政に反映していただければと思います。では、進行を事務局に戻します。

事務局)

ありがとうございました。

では最後に、次回の開催について、ご連絡させていただきます。

次回は、7月17日(水)2時からの開催を予定しております。

この会議は、竹上市長のブレーン会議と位置付けており、今年9月に市長選挙が挙行されますので、9月以降の開催は未定となっております。

詳細についてはあらためて、ご案内させていただきますので、ご予約をお願いいたします。

以上をもちまして、第16回松阪市政推進会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

《午後3時40分 終了》